

公民館報 たかぎ



【第 658 号】

発行日 2024年9月15日

発行責任者 喬木村公民館長
林 司

編集責任者 公民館広報部長
池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社

写真：喬木カメラクラブ 湯澤 昭夫

「リニアに咲く華火」

題字：龍川書友会 会友 大平 好英

おめでとうございます

作った阿島傘が飾られ、参加者を出迎えた。式典は、市瀬村長をはじめ来賓の方々よりの祝辞、代表者による意見発表がメッセージを作成。また、再会を想い、20年後の自分たちに向けたメッセージカードも作成された。祝賀会では、味の会座のタルトやパウンドケーキも用意され、会場に彩りを添えた。また、村出身アーティストであるアナログフィッシュの佐々じられた。

祝賀会の様子



実行委員のみなさん

胡桃澤 彩 音 片 桐 詩江莉
大 原 香 乃 松 澤 暖 乃



○亡くなった同級生にも想いをこめてひとこと
○ 40 歳の自分に向けてメッセージ
時間をかけて真剣に考えました。



めちゃ。おいしい!



令和
6年度

二十歳のつどい

8月15日喬木村福祉センターにおいて、令和6年度二十歳のつどいが開催された。会場玄関には10年前に自分たちがあり、発表者からは将来を見据えた覚悟、感謝の言葉がつつられた。祝宴に先立ち、亡くなった同級生2名への黙祷を捧げと公民館文化部有志によるキンパやくりん豚の冷しゃぶといった手料理が用意され、農園野風のりんごシードル、しろくま木さんより、メッセージと歌の動画も寄せられた。実行委員を中心に、心のこもった会場づくりがなされ、故郷の良さを感じ

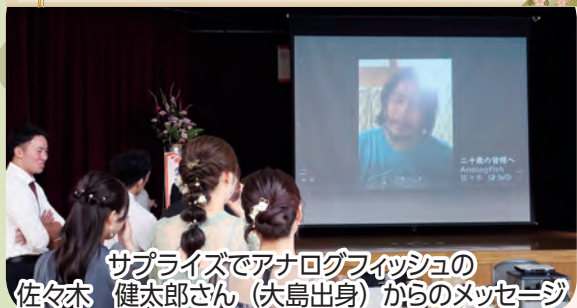
式典の様子



村歌斉唱



地元の方の想いを様々な形でお届け



サプライズでアナログフィッシュの
佐々木 健太郎さん（大島出身）からのメッセージ



農園野風の
りんごシードル



味の会・公民館文化部有志のみなさん
キンパ・冷しゃぶを作ってくださいました



しろくま座のタルト・パウンドケーキ



キンパ（韓国風のり巻き）
冷しゃぶ（くりん豚）

1組代表あいさつ 博沼 大希さん

本日は私たちのためにこのような盛大な式典を開催していただき誠にありがとうございます。また、市瀬村長をはじめ皆様から温かいお祝いと激励のお言葉をいただき、二十歳としての喜びを噛み締めると同時に、今後の責任の重大さを痛感しております。私たちの人生において大きな節目となる二十歳の集いを開催するにあたり、多くの方のお力添えのもと、本日のこの日を迎えられることに心より感謝申し上げます。

振り返ること十年程前、特に私と親しく学生生活を共にしたみなさんはよく記憶に残っていることかと思いますが、たくさん失敗をし、何度も先生方に叱られ、反省文を書いたことを覚えていますか？登下校中に紙飛行機を飛ばして遊んだり、柿を投げ合って遊んだり、給食の時には牛乳を飲んで友達を笑わせてみたり、バカなことばかりやっていました。しかし、今思えばその当時が一番楽しかった、あの時に戻りたい・・・なんて思うこともあります。そんな幼少期を過ごした私ですが、中学生になり真剣に野球というスポーツに向き合いました。特に自分たちの年代では、コーチである林田さんから新チーム結成時に「史上最弱の年代だ」と言われたことを鮮明に記憶しています。まず、今までの先輩方と違った大きな問題として、ピッチャーがいなかったことです。そこで私は、何を思ったのか根拠のない自信から自分が投手をやらなければならないと感じ、今までやる事なかった投手という責任重大なポジションに挑戦しました。後にこの挑戦が自分を大きく成長させる出来事となりました。右も左もわからない投手というポジション、コーチや先生、保護者の皆さまからのご指導のもと、自分なりに考え練習し、土俵に立てるレベルまで何とか成長することができました。そして仲間のおかげもあり飯田下伊那では優勝を争うほどのチームに成長しました。「やればできるじゃん」この挑戦から、私は自分に自信が持てるようになり、様々な分野で、一歩踏み出すことが出来るようになりました。

あれから時を経て、現在私は、東北の大学へと進学し、日々、勉強、バイト、ちょっぴり遊びに明け暮れています。一人暮らしを始めて驚いたのが、半年で体重が十七キロも落ちるという珍事件です。しかし、私は気づいてしまいました。喬木村のご飯を食べていないからだ。やはり私の育った喬木村、良い物を食べさせて頂いていたんだと、つくづく考えさせられます。

大学では様々な人との出会いがあり、「夢に向かって本気で努力している人」、「目標をもって生きている人」この歳になってこのような人と出会うと、心の底から尊敬できますし、カッコイイと思います。意見発表のテーマである「自分がどのような大人になりたいか」もうそれは、私たちにとって答えは一つです「年齢関係なく何かに挑戦し続けられる大人になること」です。将来、家族を持った時、子どもたちにカッコイイと思ってもらえる父親でありたいです。

思い出話になってしまいましたが、私たちは「二十歳」という大きな節目を迎えました。社会に出て働いている人、学生として勉強中の人、まだ将来の道を迷っている人等さまざまです。今の日本社会は、変化も激しく、若い私たちにとっては、とても厳しい環境の中にあります。しかし、成人として晴れの門出を迎えて今、大人としての自覚を持ち、責任ある社会人として常に前向きに歩んでいくことをここに誓います。どうかこれからも温かい目でご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

簡単ではありますが、これまでお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、以上で代表の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。



左：牧内 友哉さん 右：博沼 大希さん

2組代表あいさつ 牧内 友哉さん

本日は、私たちのためにこのような素晴らしい二十歳のつどいを開催していただき、誠にありがとうございます。市瀬村長をはじめご来賓の皆様、多くの方々のご尽力により、この大切な節目を迎えられることに心より感謝申し上げます。

この日を迎えるにあたり、家族、友人、先生方、そして地域の皆様から受けた多くの支えと励ましがあったことを、改めて実感しております。これまでの20年間、私たちはさまざまな経験を積み、成長してきましたが、それは一人の力では決して成し遂げられなかったものです。皆様から心からの感謝を申し上げます。

私は高校卒業後、関東の大学に進学し、一人暮らしを始めました。慣れない環境での生活に最初は戸惑いもありましたが、徐々にその環境に慣れ、現在は大学で主にまちづくりについて学んでいます。都市部では再開発が進んでいる一方で、その結果として街の特性が失われつつあることが問題視されています。街というものは、そこに住む人々の誇りや愛着によって成り立っているものであり、再開発によって新しい魅力が生まれる反面、古くからの特性や良さが失われる可能性があります。このような問題に対して、私は大学で学ぶ中で、地域の特性を活かし、住民が誇りを持つ街づくりがいかに重要であるかを深く理解するようになりました。

そんな中、春に久しぶりに喬木村に戻ってきた際に、桜の季節だったこともあり、家の近所を散歩しました。綺麗な桜を見ていた時そこで出会った一人のおばあさんが印象に残っています。おばあさんは「この桜は、孫が生まれた時に自分たちで植えたものなのですよ」と誇らしげに語ってくれました。毎年この桜を眺めるためにこの場所を訪れるのだそうです。おばあさんが桜を見つめながら微笑む姿を見て、私の心も温かくなり、このような風景や人々の思いをこれからも大切にしていきたいと強く感じました。

喬木村に帰省するたびに、少しずつ変わっていく風景を見ることがあります。新しい建物が建ち、昔ながらの風景が少しずつ姿を変えていくことに、これからの村への未来への期待とともに、どこか寂しさを感じることもあります。しかし、その変化の中にも、喬木村には変わらない魅力がたくさん詰まっていると感じます。おばあさんが毎年訪れたいと思う場所があるように、きっとみなさんにもそのような場所があるのではないのでしょうか。私は、そのような場所や風景が喬木村にあることを誇りに思います。

さて、私たちは晴れて20歳となり、成人としての新たな一歩を踏み出しました。しかし私は未熟な人間であることに変わりはありません。これからも私を成長させてくれるすべての人への感謝の気持ちを忘れずに、謙虚な心を持ち続けたいと思います。成人への抱負としては、一人一人と真摯に向き合い、周りから信頼される人間でありたいです。また私たちの故郷である喬木村の良さを再確認し、今後は大学での学びをさらに深め、まちの課題解決に繋げていきたいです。

以上をもちまして、成人代表としての挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

実行委員 胡桃澤 彩音さん

本日は二十歳という節目の年を迎えた私達に、このような素晴らしい式典を催していただき誠にありがとうございます。ご多用のところ、市瀬村長をはじめ、ご来賓の皆さま、恩師の方々にご臨席いただきうれしく思います。二十歳の集いを開催するにあたり、多くの方にお力添えをいただき、本日のを迎えることができました。深く感謝申し上げます。

私達が中学校を卒業したのは五年前の春のことです。あっという間に過ぎた日々ではありますが、皆さま、様々な思い出があり、充実した日々であったと思います。私自身は、保健師を志し、勉強する毎日であります。楽しいことも難しいこともありますが、努力を続け、保健師となった時、多方面から地域の方々に支えたいと考えております。

成人の一人として歩み始めたわたくしたちですが、未熟な面が多くあります。その中でも自らが選択した場所で日々努力し、成長できるように取り組んでいきたいです。

最後になりますが、本日まで支えてくださった保護者の方、温かく見守ってくださった地域の皆様方、お世話になった多くの方に感謝申し上げます。簡単ではございますが、以上で実行委員の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

公民館文化部楽遊塾

川遊び体験

7/21
開催

今年度第1回公民館楽遊塾が開催され氏乗の田舎道周辺の川で遊びました。
総勢39名のご家族の皆さんが参加しました。

始めに川魚のつかみ取りをしました。初めての体験のお友達もたくさんいて最初はみんなあたふた...。だけれども、慣れてくると魚を浅瀬に追い込んだり、追いかけてまわしてくたびれたところを狙ったり、工夫して魚を捕まえることができました！

捕まえた魚は、氏乗地区のみなさんから教えてもらいながら、カッターを使ってさばくことができました。

炭火で焼いた塩味の効いた魚は絶品で、まわりのお友達もべりりと食べていました。また、氏乗で採れたとうもろこしやトマトも全部美味しかったです！川も冷たくて気持ちよかったです。夏のいい思い出ができましたよ！氏乗のみなさんと文化部みなさんありがとうございました！またいっくね！

お友達のコメント

魚はヌメヌメして1匹もつかまねられなかったけど楽しかった。

生きてる魚をカッターでさばいたのが難しかったし、お腹に塩をぬりすぎて少ししょっぱくなってしまったけどおいしかった。

とうもろこしもあまくておいしかったですし、友だちと浮き輪で川遊びしたのも楽しかった。



第27回 椋文学夏期講座「ああ、椋鳩十は詩人だったんだ！」

8月18日
開催

8月18日（日）に第27回椋文学夏期講座を開催しました。本年度は、前椋鳩十記念館・記念図書館長である菅沼利光先生をお招きし、「ああ、椋鳩十は詩人だったんだ！」と題したご講演をいただきました。

今回の講演では、「大造じいさんとガン」、「月の輪グマ」、「マヤの一生」など、数多くの動物物語を執筆した椋鳩十の19才〜20代前半の活動についてお話を聞きました。

この時期の椋は、「今は詩が私の命がけの遊びである」として、詩を書くことに没頭していたとのことでした。友人や師と仰ぐ詩人との交流を重ねつつ、「駿馬」、「夕の花園」の2冊の詩集を自費出版するなど、意欲的に創作活動に取り組んでいたそうです。

また、その後の椋の文章が、「絵画的で、詩的であること」、「読者を立ち止まらせ、情景を考えさせる」などの特徴があることは、「椋が詩人だったこと」につながっている」と教えていただきました。

講演の最後には、「若き日に誰と出会うかという出会いの大切さ」と、「命がけで、のめり込む楽しさと苦しさを体験することの重要さ」を椋鳩十の歩みからお話いただきました。

○参加された方の感想

・椋鳩十の新しい世界を見せてもらったように思います。様々な詩を紹介してくださり、言葉に対して敏感であった椋鳩十の世界観、表現への考え方がよくわかりました。楽しい時間でした。ありがとうございました。

・情熱的、熱い思いの菅沼先生の語りであったという間の時間でした。椋鳩十の新たな一面を知ることができました。貴重なお話をありがとうございました。



講師 菅沼 利光先生



令和6年度 第一回平和学習会 上映会

「荒野に希望の灯をともし」

〜医師・中村哲 現地活動35年の軌跡〜

8/2 開催

「人は必ず死ぬ」この言葉で映画は始まります。終盤、

蘇った緑の大地が見渡せる高い場所で中村医師はインタビューに答えます。「最初から平和だとか国際貢献だとか言って飛び込んだわけではなく、

チョウチョと山が好きで、たまたま目の前に助けなきやならない人がいたから助け、そのままずっとやってきたら、今、六十五万人を支えるまでになった」と純粋な目とはにかむような笑顔で語ります。(飯田下伊那14市町村の人口は15万人強)

上映後に書いていただいた感想の一部を紹介いたします。

・「見ようと思わなければ見られない」の言葉にドキッとしました。日本の中で暮らしていると、見ようと思わなければ世界の貧困は解らず自分の生活で精一杯で、困っている人に手を差し伸べることでさえできない(60代)

・平和という大きなテーマについて深く考えさせられました。(40代)

・砂漠が一面の緑の地になった感動！信念を持って取り組むことの大切さを感じました。(40代)

「もっと大勢の方に観ていただきたかった」と何人も書いてくださいました。



●DVDの貸出について

今回の映像は映画版ではなくDVD版を購入して上映いたしました。このDVDは無償での貸出が可能です。詳しくは、喬木村教育委員会にお問い合わせください。

令和6年度

8/24実施

第17回 武田信玄狼煙リレーが実施されました

加々須茶臼山



富田城山



お庭拝見!

Vol. 1



大和知
萩原 巧さん
90歳

萩原さんが庭づくりを始めたのは45年前。38歳の時。

木炭の指導員や会社勤めをしながら、朝晩の時間や休みの日を使いこつこつと創り上げてきたそうです。しかも、ほとんどひとりで。大きな石は、チェーンブロックや木馬を引いて持ち上げました。ドウダンツツジやキシシマツツジがまあるく刈り込まれ、庭面のコケやイワヒバが青々と繁る様は大きなスクリーンのように広く観る者を圧倒します。

ツツジは、挿し木で増やしたそうで、その地道さにも人柄を感じます。

喬木村俳句会 葉月句会 詠草

ほしづくよ夜間飛行の遙かなり
秋の夜や「せんせいあのね」子の日記

木下 瑞恵

子等の振るラケット軽く夜の秋
百日紅フリルで踊る枝先に

矢澤 恵美子

蓮の花ただよふ寺や虹立ちて
朝まだき光る蜻蛉や稲穂かな

松島 みのり

仕事終へホッと聞き入る虫の声
夏雲が動きくつきり穂高岳

宮島 高枝

草刈し木陰に入りて蝉しぐれ
迎火や一番風呂に誘ひて

村山 たか子

久に見し蠍座赤く涼夜かな
迎火で迎える仏ただ三日

原 美恵子

語り部の言の葉おもしろ原爆忌
血圧計けだるき音の残暑かな

西元 くにこ

ついでめし庭の雑草露の玉
リズムカルにまた轟音に秋雨かな

市橋 ヨリ

西瓜割るひとつ解けしうれひごと
待つことは信じることや虫の声

松葉 孝子

遠き日の三番草やお茶うまし
案山子いて交わす言葉や空模様

吉川 てる子

たかぎ短歌会 葉月歌会 詠草

のうぜんの朝朝散らばる花びらを拾いし夫をなつかしみおり

木下 寿子

幼き日母に連れられ来し医院カフェとなりて友とお茶する

小椋 りよ

空の碧入道雲に山緑せせらぎ聞いて夏は真盛り

内山 貴子

戦時下を具に記せしメモ帳を鉄砲に隠し亡父帰還す

知久 美子

幼なより亡き祖母と来しお施餓鬼の三つ盛り弁当コロナに断
たる

市瀬 准子

灼熱の最中に咲けるのうぜん花一日に終わる命を惜しむ

木林 睦枝

今日も行くデイサービスでは百三歳が読書する見て我も学ば
ん

和田 京子

オールバックの夫の散髪四十分忘れていました二か月ぶりだ

田中 妙子

七夕の空に逢瀬の星ふたつ煌めく今宵は雲の影なし

塩澤真由美

行き付けのスーパー突然店じまい時代の波か寂しさ募る

元島 康子

腰痛みて重き荷持つについ「よいしょ」幾人の手に助けられ
しか

内山 和子

初に来し鬱つい顔の「渋澤さん」一晚泊りて直ぐに出てゆく

福澤 亀人



お 知 ら せ

秋のペタンク交流会

日時：令和6年10月27日(日)

8:00～12:00(雨天中止)

場所：第一小学校グラウンド

内容：ペタンク大会

申込：10月4日(金)まで

に右記のQRコード

よりお申し込みください。



150周年記念喬木村駅伝大会

日時：令和6年11月17日(日)

コース：南部防災センター～芝グラウンド

7区間計11.4km

申込：11月1日(金)まで

に教育委員会窓口又は

右記のQRコードより

お申し込みください。



喬木村芸術祭

日時：令和6年11月12日～11月17日

場所：福祉センター他

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

あ の と き
こ の と き

公民館長



酷暑・猛暑もいい加減にしてほしいけれど、9月に入っても汗が引かない。

暑さと言えばプールではしゃぐ子供たちを思い出す。以前は8月末がプール納めだった。9月の始めには浄化装置を止め固形の塩素を入れ、着衣で水難防止の学習を行ったこともある。最近の水泳学習は7月で終了している。7～8年前までの夏休みは、子供たちが集団で登校し、学校プールで涼んで帰宅す

る。心地よい疲れを感じながらスイカやアイスを頂く。なんと夏らしい光景であったことか・・・。

しかし、ここ数年の状況は全く異なる。8月の午前中でさえも、学校へ歩いて行き来すること自体が児童を危険にさらすことになるし、プールサイドを裸足で歩けば、足の裏がやけどするほど熱い。体が冷えてうつ伏せとなり甲羅干しできるような状態では全くないのだ。保護者から「監

視当番が暑すぎてきつい」と言われ、夏休みのプール開放が無くなったのも当然だろう。

さらに近年学校プールは寿命を迎えており、毎年どこかを大金かけて修理しないと水泳ができない状況にある。そこで注目されたのが、スイミング教室だ。喬木中でも学年ごとにバスで近隣のスイミングに行き、そこで水泳学習を行っている。喬木中の50mプールを水一杯にするには20万円ほどかかるようで、年間では相当額かかる。今後、小学校の約10数時間の水泳学習は暑さとコスパの狭間でどうなっていくのか。子どもたちの楽しみを失わせたくないものが。

今 回 の 表 紙

題字

大平 好英さん 龍川書友会 会友
全日本書道芸術協会師範

書道を始めて10年程になりました。文字の美しさだけでなく、喜怒哀楽、思いの表れた書に近づきたいと考えています。これからも日常生活の中で、心安らげる時間として書道を楽しんでいきたいと思っています。



写真

喬木カメラクラブ 湯澤 昭夫さん

リニアの橋脚を入れて撮りました。
リニアが開通するまでは元気でいたいなあとお遠くに思いを馳せながら撮っていました。



7月15日発行の公民館報第657号におきまして、掲載内容に一部誤りがございました。

【誤】櫻井 那奈さん【正】櫻井 菜奈さん
上記の誤りがございましたこと、深くお詫びし訂正させていただきます。

ご意見・ご感想
お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！

喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002 mail : syakai@vill.takagi.lg.jp

編集後記

やっと朝晩涼しくなり虫の声も心地よい季節がやってきた。

しかし、今年の夏も毎日毎日暑い日が続き、体も疲れてしまった。果物にももちろん影響は大きく、ブルーベリーや高価なさくらんぼがシワシワになってしまったり、梨も日に焼けて表皮が変色してしまったり。

桃においても温暖化で毎年毎年収穫が早くなっている。柔らかくならないうちにと糖度ものらない桃の収穫に売り上げも落ちる。桃の木はもう切ってしまうのか悩むところである。

来年はいつたいたいどんな暑さになるのだろうか。